



北欧のイベント



東海大学 北欧研究サークル FINDS

参考文献

デンマーク

浅野仁・牧野正憲・平林幸祐『デンマークの歴史・文化・社会』創元社 2006 年
“God Påske”デンマークのイースター(2013/10/6) <http://www.godpaaske.dk/gaekkebrev.php>
カルチャーナイトの公式サイト(2013/10/6) <http://www.kulturnatten.dk/da/kulturnatten>

アイスランド

Reykjavik Arts Festival 2013 <http://www.listahatid.is/2013/>

ノルウェー

“Aktiv Oslo.no”ノルウェーのニュースサイト(2013/10/6)
<http://www.aktivoslo.no/guide/paske/paskefeiring-i-norge>

フィンランド

武田龍夫『北欧を知るための43章』明石書店 2001 年
武田龍夫『白夜に揺る夏至祭の歓喜 北欧生活詩』中央公論社 1996 年
佐久間淳一『フィンランド語のすすめ』研究社 2004 年
百瀬宏・村井誠人『北欧』新潮社 1996 年
フィンランド政府観光局日本語公式 HP(2013/10/8) <http://www.visitfinland.com/ja/>

スウェーデン

IKEA ジャパン

<http://www.ikea.com/jp/ja>

訓覇法子 文、ブー・モッスベリイ画『スウェーデンの四季暦』東京書籍 1994 年

FINDS 公式Twitter @FINDS_tokai

※無断転用を禁止します

本パンフレットでは、北欧 5 カ国の
祝祭日やイベントを紹介する



フィンランド



春祭り・ヴァップ Vappu

ヴァップとは4月30日の夜から5月1日にかけて行われるメーデーのことである。メーデーは、かつて、労働者の日として行進や政治演説が行われてきたが、近年では春や夏の到来を盛大に祝う日となっている。

首都ヘルシンキでは、夕方の6時になるとハヴィス・アマンダ像（バルト海の乙女像）を洗い、大学生が白い学生帽をかぶってツナギを着用し、赤や青、黄色の風船を手にして広場や公園にくり出す。そして合唱や演説をし、祭りを盛り上げる。

このヴァップは、公園でピクニックをするような形で祝うのが伝統的である。

夏至祭

Juhannuspäivä

6月20日～6月26日の間に行われる、フィンランドの重要な祝日のひとつである夏至祭は、フィンランドにキリスト教が訪れる前の時代から行われてきた。

夏至祭は都会を離れた、田舎の水辺のサマーコテージで祝われる伝統があり、祭りの日には町や都市から人がいなくなってしまうこともある。

夏至祭の夜には、Kokko(コッコ)というかがり火を囲み、民族衣装をまとった人々が踊りを披露する。

また、夏至祭の日は旗日でもあり、白地に青十字のフィンランド国旗が、白夜の空にひるがえっている光景を国中で見ることができる。



独立記念日

Itsenäisyyspäivä

12月6日、フィンランドの独立記念日には、全国いたるところで国旗がはためき、毎年大統領府では祝賀会が開かれる。この祝賀会には、その年に活躍した市民が招かれ、その様子はテレビで生中継され、多くの人々はそれを自宅で見ながら過ごす。

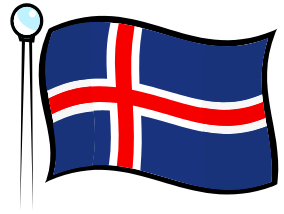
大学生や退役軍人を中心とした人々は、松明を掲げて行進し、戦争で倒れた人々の墓地や記念碑へ花やろうそくを供える。大学生たちは Senaatti (セナーッティ) 広場まで行進し、そこで祖国への愛を誓う。

家々では、2本のろうそく(多くの場合青と白の2色・写真)を窓辺に灯すのが慣わしである。



アイスランド

イースター páskar



アイスランドのイースターには、特に大きく祝われる復活祭の、1ヶ月前にも記念日がある。それは、Bolludagur(ボツレダーグル)、Sprengidagur(スプレンキダーグル)と呼ばれている子供たちの記念日だ。この二日間に子供たちは、おいしいものをたくさん口にできる。

ボツレダーグルでは、子供たちが彼らの両親や近所の人より早く起きて、杖でたたくことができれば bun (バン)を貰える。バンはクリームの入った固いパンで、他の北欧諸国にも似た食べ物が存在する。

スプレンキダーグルは、肉と豆のスープをお腹が破裂するまで食べる日だ。

この二日間は、本来この後に控えていた断食の為の栄養を摂るためであった。しかし、断食をしなくなった今日に残っているのは、おいしいものを食べる楽しみだけである。

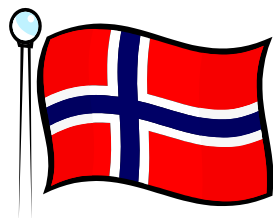
レイキャビク・ アート・フェスティバル Reykjavik Arts Festival

レイキャビク・アート・フェスティバルとは、アイスランドの首都レイキャビク各所でダンスや音楽、アート展示などが楽しめるイベントである。この行事は1970年から続いているイベントで、当初は2年に1度開催していたが2004年からは毎年開催している。

昨年は30ヶ国から600人のアーティストが、図書館や劇場で、コンサートやパフォーマンスなどに出演・展示した。

北欧の国々は冬が長く寒いため、室内で憩いの時を過ごすことができる音楽やアートなどの趣味を持つ人が多い。そのためこのレイキャビク・アート・フェスティバルは盛り上がるのである。来年度は5月22日から6月5日までの14日間行われる。

ノルウェー イースター／påske



復活祭一日目の朝、ノルウェーの食卓には鶏やミートローフ、カラフルなゆで卵などが並ぶ。ノルウェーのイースターエッグは卵の上下に穴をあけ、上から息を吹き込んで黄身と白身を出して空にする。小さな子供だとこの作業がうまく出来ず、エッグポンプ(eggpompe)というスポイトのようなものが使われこともある。

ノルウェーにはイースターに手紙を送る風習があるが、イースターを旅先や山小屋で過ごす人も多い。そのためノルウェー国内であれば、国外からの郵便であっても、イースターに手紙が届くよう整備されている。

また、イースター前の一週間は受難週と呼ばれており、過去に断食が行われていた大切な時期で、ノルウェーを含む多くの国が受難週の木曜日と金曜日を休日としている。イースターの中心となる復活祭は、2013 年は 3 月 21 日だった。 —7—

ノーベル平和賞授与式

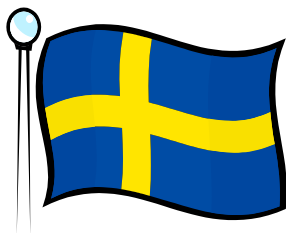
ノーベル平和賞は、アルフレッド・ノーベルの遺言により創設された、六つの賞の一つである。ほとんどの賞はノーベルの出身国であるスウェーデンで授与式が行われるが、ノーベル平和賞の授与式だけはノルウェーの首都オスロで、毎年 12 月 10 日に行われる。なぜノルウェーでノーベル平和賞が行われるのか？それは、諸説あるが一つは、スウェーデンとノルウェーの平和を祈念して、ノーベルが「平和賞については、ノルウェーの国会の任命する委員会に委ねる」と遺言を書き残したためである。

日本人で唯一、ノーベル平和賞を受賞したのは元首相の佐藤栄作（任期 1964-1972）で、「非核三原則」を提唱したことで 1974 年ノーベル平和賞を受賞した。—8—



アルフレッド・ノーベル

スウェーデン



イースター／PÅSK

スウェーデンのイースターは påsk(ポスク)と呼ばれ、元々はキリスト教のお祝いであったが、最近では宗教的な日ではなくなっている。

白樺の枝に色とりどりの羽をつけたり、玄関や庭の木をカラフルに飾りつけたりする。子どもたちは顔にそばかすなどのペイントをして魔女の格好をする。





夏至祭

Midsommar

スウェーデンの夏至祭は、聖ヨハネの日（6/24）に一番近い週末の土曜日に行われる。この時期のスウェーデンは日照時間が長く、北部では白夜の季節である。

花や葉で飾った十字架の形をした夏至柱を会場に立て、その周りで人々が踊るのが伝統である。

昔から夏至祭の前夜は、魔法の力が最も強くなると考えられており、7～9種類の花を野原で摘み、その花束を枕の下に入れて眠ると、将来の結婚を夢で見ると今でも信じられている。



ザリガニ祭り

kräftskiva

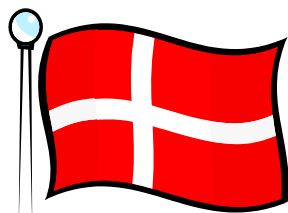
スウェーデンでは8月にザリガニ釣りが解禁され、家族と、友人と、いたるところでザリガニパーティーを開く。

パーティーでは、ザリガニをディル(ハーブ)と共に赤くなるまでゆで、アクアビットというスウェーデンのウォッカと一緒に味わうのが伝統的なスタイルだ。

もともとはスウェーデンの風習だが、現在では他の北欧諸国でも開かれる。



デンマーク



イースター

Påske

イースターの中心である復活祭は「春分の日の後初めて昇る満月から数えて最初の日曜日」とされ、3月22日から4月25日の間に祝われる移動祝日である。デンマークの学校では、9日間がイースターの祝日として、休みになる。

イースターはキリストが処刑され復活した日になぞらえて祝われる。そのため、最後の晩餐のあった受難週の木曜日と、磔にされた金曜日は不吉とされ、キリストの復活した日曜日になると華やかな食事が食卓に上り、子供たちには大小様々なイースターエッグが贈られる。

今日のデンマークでは、キリスト教徒として静かに復活祭を待つのではなく、皆で楽しんだり、連休を利用して小児洗礼式や結婚式を行ったりしている。

カルチャーナイト

Kulturnatten

カルチャーナイトは、デンマークの首都コペンハーゲンで、学校が秋休みに入る 10 月半ばに一日限りで開催されるコペンハーゲン市主催のイベントである。夕方 5 時ごろから始まり、遅いところでは翌朝まで 500 以上の催しが行われる。

テーマは、アート、音楽、パフォーマンスや劇など様々。この日だけは普段見られない国会や夜の動物園などが一般公開され、図書館や市役所などの公共施設でも一晩中特別なイベントを開催している。アスレチックや博物館でのワークショップ、コンサートや刑務所の見学ツアーなどが行われている。

イベント参加費として、90 クローネ(約 1350 円)で参加キットを購入する。チケット替わりの缶バッジがあれば、公共交通機関もフリーパスになる。イベントの関連情報はパンフレットのほか、アプリなどでも提供されている。